

第 3 章 廃棄物の排出量及び処理量の将来予測

1 一般廃棄物の排出量及び処理量の将来予測

(1) 1人1日あたりのごみ排出量及び処理量の将来予測

1人1日あたりのごみ排出量の予測は令和7年度で909 g / 人・日、令和12年度で901 g / 人・日となり、令和6年度と比較して令和7年度には3 g、令和12年度には11 g 減少すると見込まれます。

表 3-1-1 1人1日あたりのごみ排出量の将来予測

項目 \ 年度	実 績		予 測	
	令和元年度	令和6年度	令和7年度	令和12年度
1人1日あたりのごみ排出量 (g / 人・日)	969	912	909	901
増減指数	106	100	100	99

増減指数は令和6年度を100とする。

令和12年度の1人1日あたりのごみ排出量の予測方法

令和12年度のごみ排出量の理論値

令和12年度の1人1日あたりのごみ排出量を令和6年度のそれと同一であると仮定し、令和6年度の1人1日あたりのごみ排出量に令和12年度の予測人口に乗じたものを令和12年度のごみ排出量の理論値とする。

4Rの取組による排出量の削減見込み量

新たな4Rの取組（生ごみひと絞り、食品ロスの削減）による排出量の削減見込み量を各々積み上げて算出する。

令和12年度のごみ排出量の推計値

で算出した令和12年度のごみ排出量の理論値から、で算出した4Rの取組による排出量の理論値を差し引き、令和12年度のごみ排出量の推計値を算出する。

令和12年度の1人1日あたりのごみ排出量

で算出した令和12年度のごみ排出量の推計値を、令和12年度の予測人口と365日で除したものを、令和12年度の1人1日あたりのごみ排出量の予測値とする。

1

(単位: g/人・日)

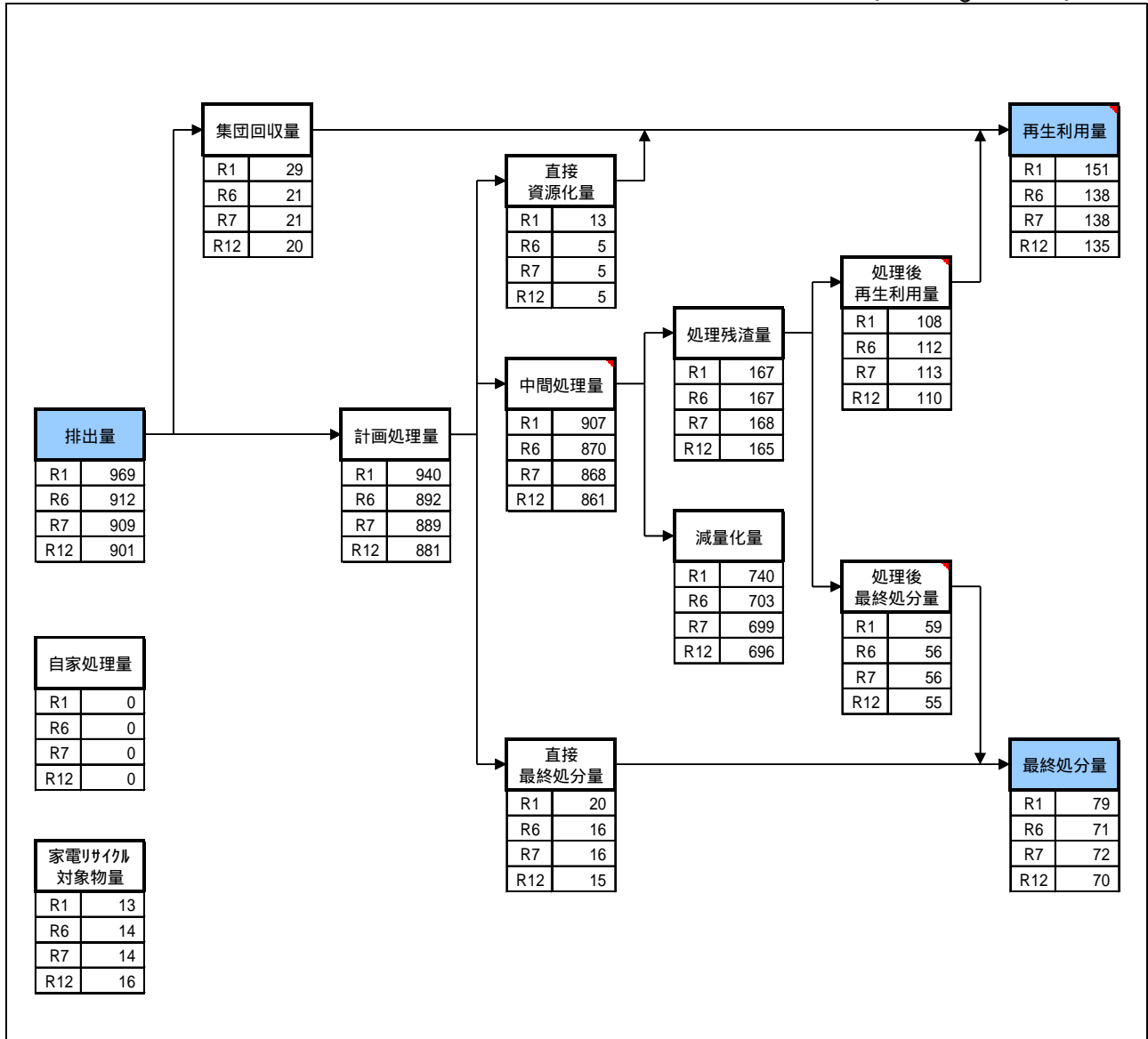


図 3-1-2 1人1日あたりのごみ排出量及び処理量の将来予測結果

令和元年度及び令和6年度の数値は実績を掲載。

四捨五入の関係で数値が合わない箇所がある。

各処理量は令和6年度における排出量に占める割合で按分したもの。

中間処理や処理後再生利用量については、長崎県分別収集促進計画の目標値を考慮して算定した。

家電リサイクル対象物量については、「家電リサイクル法の施行状況(引取実績)及び家電メーカー各社による家電リサイクル実績について(経済産業省)」などから算出した。

処理残渣量については、焼却後の灰など最終処分されるもののほか、圧縮された空かんや紙くずなど再生利用にまわされるものも含まれており、その合計値を記載した。

(2) 年間ごみ排出量及び処理量の将来予測

年間ごみ排出量は令和元年度の実測値が47万9千トン、令和6年度の実測値が42万4千トン、令和7年度予測値が41万7千トン、令和12年度予測値が37万9千トンの見込みです。

令和6年度と比較して令和7年度で7千トン、令和12年度で4万5千トン減少するものと見込まれます。

表 3-1-3 年間ごみ排出量の将来予測 (単位：千トン)

項目 \ 年度	実績		予測	
	令和元年度	令和6年度	令和7年度	令和12年度
年間ごみ排出量	479	424	417	379

年間ごみ排出量は、1人1日あたりの排出量に予測人口を乗じて算出した。

(単位：千トン)

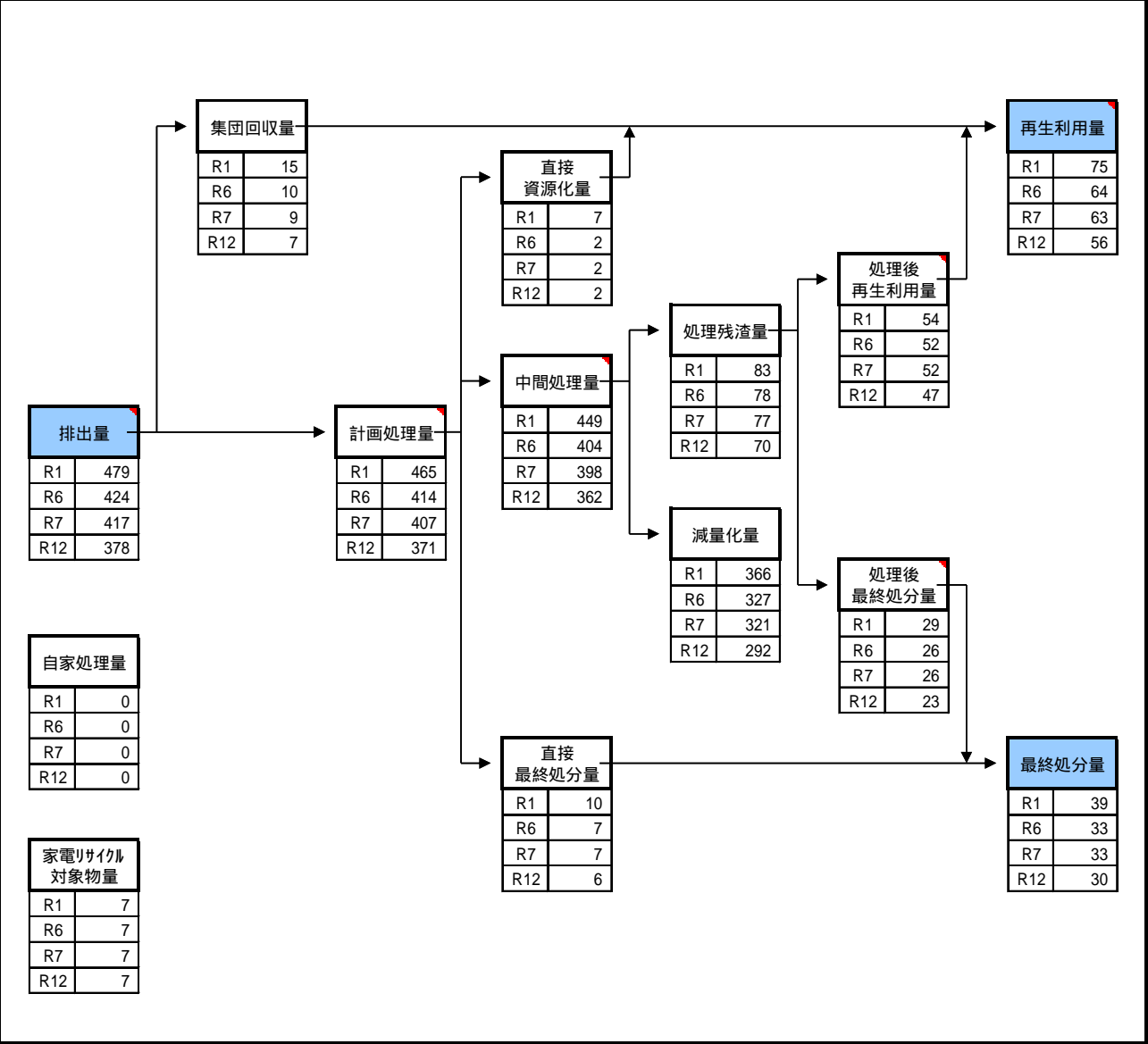


図 3-1-4 年間ごみ排出量及び処理量の将来予測結果

図 3-1-2 の注意書き 1 ~ 7 については本図表にも適用する

(3) し尿等の排出量及び処理量の将来予測

処理方式別人口の将来予測

処理方式別人口の将来予測結果は、図表 3-1-5 に示すとおりです。

本県では、引き続き下水道や浄化槽等の整備等が計画されているため、水洗化率も向上するものと予測されます。

表 3-1-5 処理方式別人口の将来予測 (単位：千人)

項目 \ 年度		実績		予測	
		令和元年	令和 6 年	令和 7 年	令和 12 年
行政区域内人口		1,346	1,273	1,256	1,179
公共下水道人口	公共下水道人口	799	778	773	744
	浄化槽等人口	271	279	275	257
	合併処理浄化槽等人口	233	252	249	235
	単独処理浄化槽人口	38	27	26	22
汲み取りし尿等収集人口		276	216	208	178

将来予測値は、過去の実績をもとに 5 種類のトレンド曲線推計式を用いて推計を行い、過去の実績をできるだけ良好に再現し、最も妥当と判断される 2 式の平均値を採用した。

表 3-1-6 水洗化率の将来予測 (単位：%)

項目 \ 年度	実績		予測	
	令和元年	令和 3 年	令和 7 年	令和 12 年
水洗化率	79.5	81.0	83.4	84.9

し尿等の排出量・処理量の将来予測

し尿処理施設で処理するし尿及び浄化槽汚泥等の 1 人 1 日あたりの排出量は、処理人口が減少するため、処理量は減少するものと予測されます。

表 3-1-7 し尿処理施設での処理量の将来予測 (単位：千 kL)

項目 \ 年度		実績		予測	
		令和元年	令和 3 年	令和 7 年	令和 12 年
処理量		587	585	542	499
し尿		358	349	316	284
1 人 1 日あたりの排出量 (L/人・日)		3.55	3.80	4.16	4.37
浄化槽汚泥等		229	235	226	215
1 人 1 日あたりの排出量 (L/人・日)		2.27	2.56	2.97	3.30

将来予測値は、過去の実績をもとに 5 種類のトレンド曲線推計式を用いて推計を行い、過去の実績をできるだけ良好に再現し、最も妥当と判断される 2 式の平均値を採用した。

2 産業廃棄物の排出量及び処理量の将来予測

(1) 年間排出量の将来予測

産業廃棄物の発生量の将来予測については、各業種における活動量指標（以下に一部記載）の伸び率を、過去の動向（トレンド）から関数式を用いて予測し、これに現在の廃棄物量を乗じることで算出しました。

- ・工事完成工事高（建設業）
- ・製造品出荷額（製造業）
- ・給水人口（上水道業）
- ・処理人口（下水道業）

この結果、令和12年度の排出量は約562万トンと予測され、令和6年度の実績値と比べて約13万トン（2.3%）増加すると予測されます。

表 3-2-1 産業廃棄物の排出量の将来予測結果

年度 項目	令和6年度	令和12年度
排出量（千トン）	5,490	5,615
（増減指数）	100.0	102.3

増減指数は令和6年度を100とする。

（千トン）

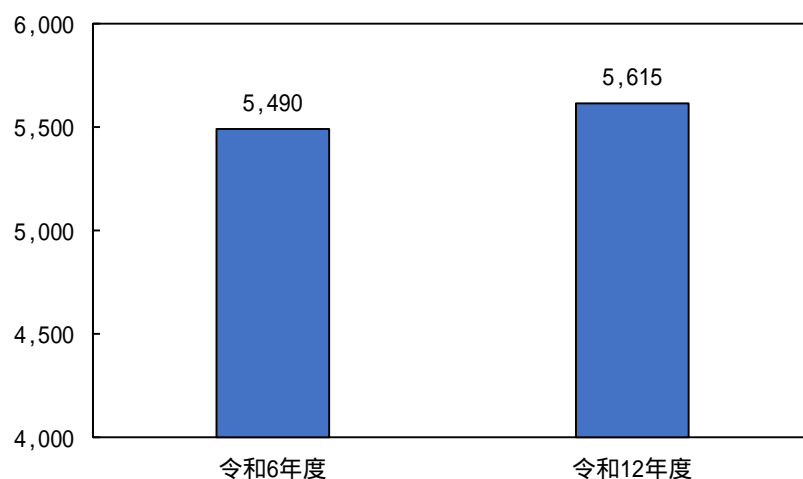


図 3-2-2 産業廃棄物の排出量の将来予測結果

業種別排出量の将来予測

令和6年度から12年度にかけ、増加量が多い業種は建設業であり、令和12年度までに約18万トン増加すると予測されます。一方、電気・水道業については約8万トン減少すると予測されます。

表3-2-3 業種別排出量の将来予測

	令和6年度		令和12年度	
	排出量(千トン)	構成比(%)	排出量(千トン)	構成比(%)
合計	5,490	100.0	5,615	100.0
農業・林業	1,641	29.9	1,641	29.2
建設業	1,223	22.3	1,407	25.1
製造業	572	10.4	608	10.8
電気・水道業	1,875	34.2	1,796	32.0
運輸・郵便業	30	0.5	27	0.5
卸売・小売業	30	0.5	27	0.5
医療・福祉	16	0.3	15	0.3
サービス業等	103	1.9	93	1.7

数値は四捨五入の関係から合計値が一致しない場合がある。

(千トン)

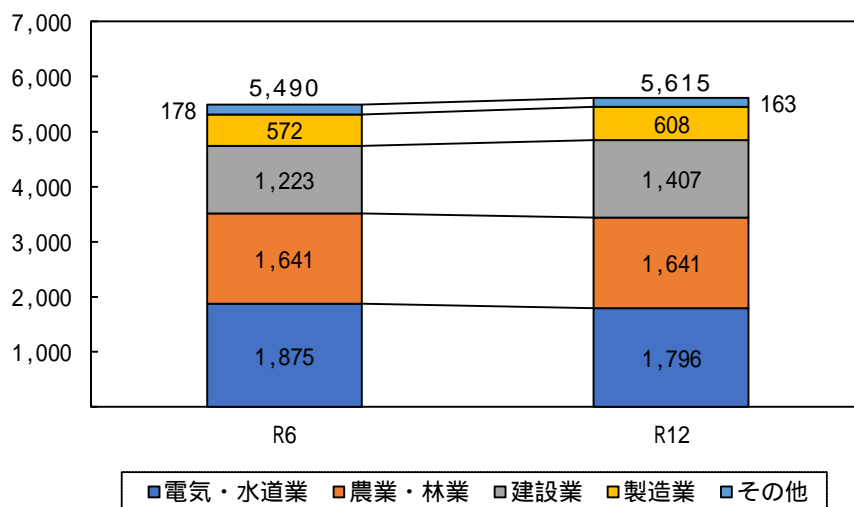


図3-2-4 業種別排出量の将来予測

種類別排出量の将来予測

令和12年度の種類別排出量は、建設業の工事の増加により、特にがれき類や木くずなどが令和6年度に比べ増加すると予測されます。

表 3-2-5 種類別排出量の将来予測

	令和6年度		令和12年度	
	排出量(千トン)	構成比(%)	排出量(千トン)	構成比(%)
合計	5,490	100.0	5,615	100.0
燃え殻	34	0.6	35	0.6
汚泥	1,307	23.8	1,236	22.0
廃油	13	0.2	13	0.2
廃プラスチック類	102	1.9	104	1.9
木くず	116	2.1	138	2.5
動植物性残さ	20	0.4	21	0.4
金属くず	50	0.9	51	0.9
ガラス陶磁器くず	92	1.7	101	1.8
がれき類	1,076	19.6	1,234	22.0
動物のふん尿	1,637	29.8	1,637	29.2
ばいじん	916	16.7	913	16.3
特別管理産業廃棄物	37	0.7	39	0.7
その他	89	1.6	93	1.7

数値は四捨五入の関係から合計値が一致しない場合がある。

(千トン)

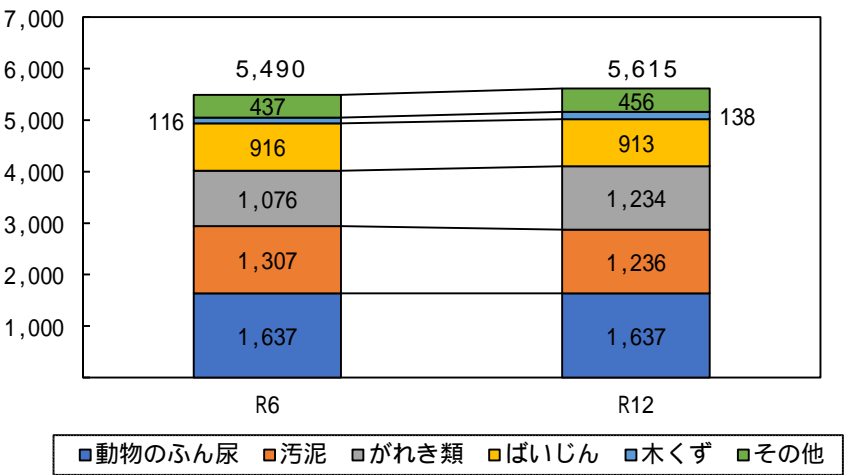


図 3-2-6 種類別排出量の将来予測

ブロック別排出量の将来予測

ブロック別に見ると、「長崎・西彼」、「佐世保・県北」、「県央・県南」において、排出量の増加量が多いと予測されます。これは、本土地区において、建設業からの排出量が増えると予測されるためです。

表 3-2-7 ブロック別排出量の将来予測

	令和 6 年度		令和 12 年度	
	排出量（千トン）	構成比（％）	排出量（千トン）	構成比（％）
合計	5,504	100.0	5,639	100.0
長崎・西彼	1,661	30.3	1,677	29.9
佐世保・県北	1,798	32.8	1,839	32.7
県央・県南	1,654	30.1	1,707	30.4
下五島	176	3.2	181	3.2
上五島	26	0.5	28	0.5
壱岐	142	2.6	145	2.6
対馬	33	0.6	37	0.7

数値は四捨五入の関係から合計値が一致しない場合がある。

（千トン）

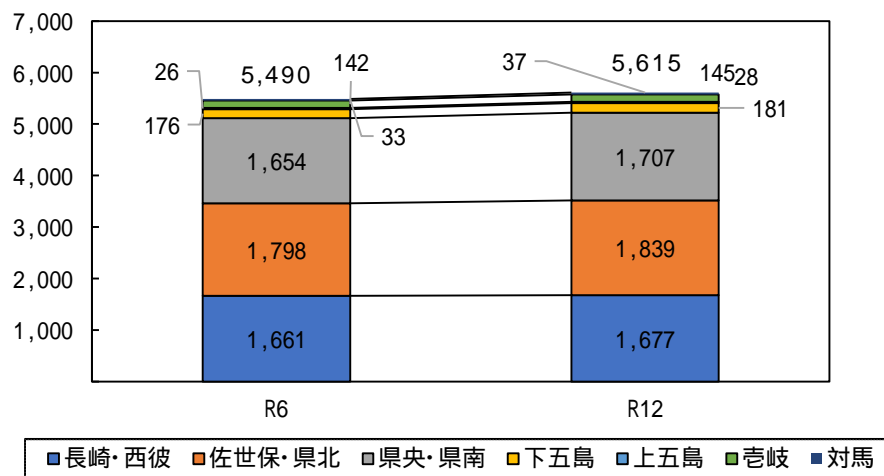


図 3-2-8 ブロック別排出量の将来予測

(2) 処理量の将来予測

処理量の将来予測については、業種の種類毎において各排出量に対する自己処理率や再生利用率、減量化率、最終処分率が現状のまま推移すると仮定し推計しました。

その結果、令和12年度の再生利用量は約360万トンとなり、令和6年度に比べ約14万トン増加するものと予測されます。

また、令和12年度の間接処理による減量化量は約177万トンで、令和6年度に比べ約2万トン減少するものと予測されます。また、最終処分量は約27万トンで、令和6年度に比べ約3万トン増加すると予測されます。

再生利用量の増加量が大いなのは、建設業の工事の増加に伴い、再生利用率の高いがれき類（再生利用率（令和6年度実績）：99%）や木くず（同76%）の排出量が増加すると予測されていることが主な要因です。

表3-2-9 処理量の将来予測

年 度	令和6年度	令和12年度
排出量（千トン）	5,490	5,615
増減指数	100	102.5
再生利用量（千トン）	3,457	3,598
64.8	63.0	63.8
105.3	100	105.9
減量化量（千トン）	1,792	1,768
30.8	32.6	31.3
96.6	100	95.9
最終処分量（千トン）	241	273
4.3	4.4	4.8
101.4	100	104.3

1 数値は四捨五入の関係から合計値が一致しない場合がある。

2 増減指数は令和6年度を100とする。

（千トン）

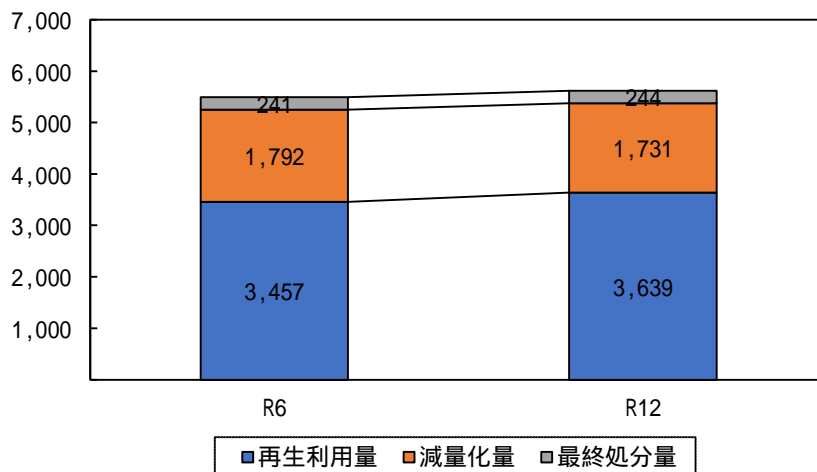


図3-2-10 処理量の将来予測